



PTNA PIANO SEMINAR

～生誕270年を迎えてなお光を放つ魅力の源を探して～

2種類の楽器からアプローチする 演奏法「モーツァルト」

モーツァルトが現代のピアノを演奏したら、まったく新しい曲ができあがっていたかもしれません。当日のフォルテピアノでできることは現代のピアノとは異なります。実際にフォルテピアノを見て、その特徴を知り、演奏を聴いて、当時の演奏に思いを馳せることで見えてくるがあります。

今回は、ワルターモデルのフォルテピアノとスタンウェイを行き来しながら、当時の演奏について学び、現代のピアノでできる表現について一緒に考えてみましょう。

♪ 曲目：アリエッタ、幻想曲 KV397、ソナタ KV545、
ソナタ KV331「トルコ行進曲付き」 ほか

6/15(月)
10:00 - 12:00

会場

西方音楽館 木洩れ陽ホール

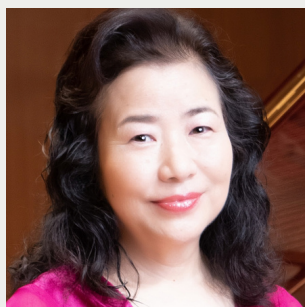
栃木県栃木市西方町金崎 3 4 2 - 1

受講料

(各税込)

ピティナ会員：3,000円

一般：3,500円



講師

久元 祐子先生

東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、ウィーン・サロネー・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ブロードウッド(1810年頃製)、ベーゼンドルファー(1829年製)、ブレイエル(1843年製)、エーラー(1868年製)などを所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。2010年ショパン生誕200年記念年には、全国各地でブレイエルを使っている演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下(現上皇皇后両陛下)ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾りベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。2012年、2014年イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。これまでCD17作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特選盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン」テレーゼ・ワルトシュタインはグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。園田高弘賞、毎日21世紀賞など受賞。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」「ショパンとブレイエル・ピアノ」「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」(いずれも学研プラス)など。国立音楽大学・大学院教授 日本ラトビア音楽協会理事、(一財)辻文化財団理事、ピティナ評議員。

久元祐子ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>

主催
問合

ピティナ小山ステーション

090-1844-1003

MAIL:kokubomotoko@gmail.com

【協力】ピティナ小山支部

右記二次元コードより
お申込みください。→

